

『行方の未来、10年後20年後の地方創生』



平成17年に3町が合併し、『行方市』として歩み始めて、今年で10年が経過しました。市制施行10周年を記念し、鈴木市長と鈴木議長が、『行方の未来、10年後20年後の地方創生』をテーマに、行方市のこれまでの歩みを振り返るとともに、これからの行方市について対談を行いました。聞き手 西野副市長

行方市誕生後からこれまでの10年間を、どのようにとらえていますか。

議長 合併特例債事業をはじめ、平成27年度までの学校耐震化、小中学校の統廃合など、教育施設の整備が主な事業であり、教育環境の充実に費やした10年間であったと感じています。

また、市の職員数もこの10年間で100人以上減った中で、頑張ってくれていると思います。

市長 市が子どもたちの教育環境改善のため最優先事業として取り組んできた学校統廃合事業は、他市より早く平成28年3月の事業完了が見込まれています。

市制施行後、まだ、十分には市の一体感が醸成されていない面もありますが、東日本大震災等の災害対応をきっかけに、行方市民としての意識が定着してきたと感じています。



今の行方市に「足りないもの」は何だと考えていますか。

議長 市長からもありましたが、旧3町の一体感はまだ醸成されていないと感じています。

旧3町の中学校は各地区1校となったことで、中学校単位での一体感が出てきたのかも知れません。しかし、市民全体の一体感の醸成には課題が残っていると思います。

庁舎が旧3町ごとに分かれていることも、一体感を醸成する上での障害要因だと思います。

市長 中核的な医療機関はあるものの、高齢化率が高い行方市では、医療機関や公共交通機関などの暮らしやすさの面がまだまだ不足していると感じています。「行方市」の名前は、市民には定着してきましたが、市外の知名度は低く、ネームブランドが浸透していないと思います。

その一方で、行方の歴史・文化や風土、食べ物、自然環境などが、他市からはうらやましがられているということも市民には認識してほしいと思います。

確かに庁舎の一元化も行方市には必要な事業だと思います。

今の行方市に「売り」にできるものは、何があると思いますか。



議長 行方市には60品目の農産物があります。環太平洋パートナーシップ（TPP）協定交渉もありますが、安全、安心、新鮮な野菜の首都圏への供給地として売りにできると考えています。

また、やさしく思いやりのある市民が多いことから、行方市に来ていただいた人への「おもてなしの心」も売りになるのではないのでしょうか。

市長 交通手段の確保や農業のブランドディングは課題ですが、生活環境は整ってきており、小さい地域ならではの一体感は潜在的な力があります。

この地域の風景や食べ物に魅力的なものがたくさんあり、「都会にない良さ」が行方市にはあると考えています。

「今後の10年後、20年後」を見据えて、どのような取り組みをしていくべきと考えていますか。

議長 これからの10年間で庁舎をどうするのか確定し、市の一体感を醸成したいと考えています。

また、近隣自治体との文化施設や体育施設等の相互利用など広域連携を進めるとともに、ゴミ処理などコストがかかるものも広域で進めていくべきだと考えています。

これまで以上に、市を取り巻くさまざまな課題・難題には、丁寧な説明をしながら、市民、行政と一緒に考えていきたいと思っています。

「若い世代が将来に希望を持てるようなまち」を実現するため、生涯学習を絡めた地域づくりや人材育成に取り組む、市民が総活躍できる行方市を築いていきたいと考えています。

市長 学校の統廃合が完了し、大きな建設事業は一段落しました。引き続き子育て支援や教育環境の充実に取り組むことはもちろんですが、市民が安心して暮らせる社会の実現に向けて、防災対応型エリア放送等による情報伝達の拡充、交通インフラの充実、元気な行方になるための産業の活性化

などにも力を注いでいきたいと考えています。

人口減少を食い止め、地方が主役となるための地方創生元年の本年、市では行方の将来の方向性や具体的な方策を示す総合戦略書の策定を多くの市民に参画していただき進めています。その中で、地域の歴史を振り返ってその良さを発掘し、今後の10年後を見据えるものを発見していきたいと考えています。また、地域コミュニティやそれらを支える人材育成にも取り組む必要があります。

小さいながらの地域のつながりが合いが地域活性化となり、行方市が今後存在し続けることにつながることも考えています。

子育ての段階から10年後20年後を見据え、子ども達がこの地域で育つ環境づくりに取り組んでいきながら、習慣、食、生活、まつりなどの行方市独自の文化を伝承していくことにより、郷土愛を育んでいきたいと考えています。一方で、多くの人に行方市を訪れてもらい、交流・定住人口を増やすことも大切だと考えています。

若い世代（次の世代）に、どのような期待を持っていますか。また、ご自分の世代は、「何を大切にして引き継ぐべき」と考えていますか。

市長 われわれ親の世代は自信を持って子育てを進め、祖父母も自信を持って子ども達に行方市の良さを伝えるなど、継続すべきものは継続し、変革すべきものは変革すべきものとして次世代に引き継いでいきたいと考えています。

若い世代には、行方市が常陸国風土記に登場するなど、古来から穏やかで暮らしやすいところであることを認識し、行方市民であることに誇りと自信を持ってほしいと思います。地元意識の高まりが、将来に役立つものと考えています。

議長 来年から18歳以上に選挙権が与えられることとなります。政治に関心を持ってもらうためにも、行方市の素晴らしさを道徳や教育を通して伝えていきたいと思っています。

若者には行方市出身者として市外で活躍されることも期待しています。将来的には行方市に戻ってきてほしいと考えています。